センターだより
まずな

ぎふの埋蔵文化財

財団法人 岐阜県教育文化財団
文化財保護センター

51
2008.3.1

岐阜県の埋蔵文化財情報が満載

有坂薬師堂遺跡（郡上市）配石遺構（北東から）

荒尾南遺跡（大垣市）周溝墓群（南東から）

ウバガ平遺跡（高山市）古墳4基（西から）

与島B地点遺跡（高山市）全景（北西から）

与島C地点遺跡（高山市）全景（北から）

広畑野口遺跡（各務原市）掘立柱建物跡（南から）

特集
2007年度発掘調査の報告

考古学教室⑫
「遠くからきた石」

現地説明会報告、発掘速報展報告ほか

2007年度 発掘調査の報告【1】

荒尾南遺跡（大垣市荒尾町・桧町）

荒尾南遺跡は、大垣市の西部を流れる杭瀬川と大谷川に挟まれた標高5～7mの低地に位置する遺跡です。昨年度からの発掘調査で、弥生時代後期から古墳時代前期の142軒もの竪穴住居跡が発見されており、この時代の大規模な集落跡であったことが明らかになりつつあります。また、弥生時代前期の土器棺墓2基、弥生時代中期から後期の方形周溝墓75基、古墳時代前期の前方後方形周溝墓など、墓域としても盛んに利用されていたのではないかと考えられます。

今年度の約10,000m²の調査では、ベンガラと呼ばれる赤色顔料の材料となる赤鉄鉱が出土し、弥生時代後期から古墳時代初めにベンガラの生産を行っていたと思われます。また、幅約10m、深さ約2mの大溝からは、多量の木製品が出土しましたが、その中には長方形や方形の板材や鍬の未製品があり、この集落で農具などの木製品を作っていたことも分かりました。この大溝からは、巴形銅器、赤く塗られた板、舟形木製品、銅鏃形木製品、鳥形木製品など祭祀に関わる遺物も多数出土しています。

荒尾南遺跡におけるこれまでの発掘調査から、弥生時代から古墳時代前期にかけての、この遺跡の変遷がみえてきました。特に弥生時代終末期において、小集団がいくつも寄り集まって大規模な集落を形成し、近隣では水田を営む様子が明らかになりました。さらに、この大規模な集落は、水田耕作だけを生産基盤にしているのではなく、金生山から産出する赤鉄鉱を加工して顔料としてのベンガラを生産している可能性が高いことも分かってきました。

荒尾南遺跡は、弥生時代終わり頃に濃尾平野における一つの拠点となるような大集落を形成していたとも考えられます。

▲溝の中で発見された赤鉄鉱と巴

▲土坑からまとまって出土した土器

▲大溝から出土した木製品

▲巴形銅器

広畑野口遺跡（各務原市蘇原青雲町）

広畑野口遺跡は、各務原市の各務原台地中位面の西端に立地します。今年度の約3,100m²の調査では7世紀後葉から8世紀前半にかけての掘立柱建物跡5棟、柱穴列1列、須恵器が多数出土した土坑1基などが見つかりました。

柱穴の中から出土した土器から、掘立柱建物跡は7世紀後葉から8世紀前半の建物跡と考えられます。柱穴の平面形は方形で、柱穴と柱穴との間はほぼ等間隔になります。建物の規模は、全体が分かる掘立柱建物跡をみると、桁行は2間、梁行は7間と大きく、柱の間隔も約2.37m（約8尺）と長いものです。この時代の集落跡や居宅跡の掘立柱建物跡と比べてみると規模の大きい建物跡と言えます。建物の配置は、南北方向に長い棟と東西方向に長い棟を鍵の手状に配置しています。今回の調査で確認した建物跡の大きさや配置は、各地で発見されている当時の役所の特徴を示します。出土した遺物の中に文書行政を物語る円面硯等が多く出土していることも役所に関連した遺跡であることを裏付けています。しかしながら、各地で発見された当時の役所の特徴である建物群を区画する塀や溝などの施設は今回の調査では確認されていませんので、役所のどの部分を構成する建物跡かは不明です。

この他に、掘立柱建物跡に隣接した場所の大きな土坑から須恵器が大量に見つかりました。土坑は、方形の土坑が互いに重なり合うように掘り込まれ、土坑内から7世紀後葉の、元の器の形が分かるような須恵器の大きな破片が1,000点以上出土しました。

▲大型の土坑から出土した多数の須恵器

▲円面硯（7世紀後葉）

▲掘立柱建物跡の柱穴

▲朱墨が付いた須恵器

2007年度 発掘調査の報告【2】

有坂薬師堂遺跡（郡上市八幡町有坂）

有坂薬師堂遺跡は、郡上市八幡町有坂地内の2つの河川に挟まれた扇状地にあります。今年度は455m²の調査を行い、縄文時代中期後半から晩期中葉にかけての遺構や遺物を多数発見することができました。中でも注目されるのは、石棒がいろいろな状態で出土したことです。

【配石遺構から出土】

角柱状に割れた石材を用いた石棒状の自然石が、横たわって出土しました。この石には熱を受けた痕が残っています。時期を判断できる土器はありませんが、高山市の寺東遺跡でもこのような配石遺構から出土した事例があり、縄文時代後晩期に、この場所が祭祀・儀礼的な空間として利用されていた可能性が考えられます。

【大型の竪穴状遺構から出土】

大きな川原石を用いた石棒が、石皿や多数の礫と共に出土しました。縄文時代中期後半には、竪穴住居内に石棒や石皿を廃棄する事例が多いことから、これらの石棒や石皿は、この大きな穴へ廃棄したものである可能性が考えられます。

【土坑の中に立てられた状態で出土】

長細い川原石を用いた石棒状の自然石が、土坑の中に立てられた状況で出土しました。その埋められた土の中から石冠と呼ばれる石製品も出土しました。下呂市の湯屋遺跡でもこうした立石が見られ、縄文時代中期から後期の遺構である可能性があります。

【埋設土器の中で出土】

縄文時代中期後半の土器の中に、やや斜め方向から 刺さった状態で石棒状の自然石が出土しました。この石には熱を受けた痕とタール状の付着物が見られ、尖った方が下へ向いています。竪穴住居跡の埋甕中に石棒が出土した事例は長野県下伊那郡の瑠璃寺前遺跡にあります。この土器も埋甕だったのかもしれません。

このように、当遺跡では、石棒や石棒状の自然石がいろいろな状態で出土しました。調査区が狭く、遺跡の全容が明らかではありませんが、これらの発見は、当時の石棒に対する信仰の在り方を考える上で、貴重な資料になります。

▲配石遺構から出土した石棒状自然石

▲大型の竪穴状遺構から出土した石棒

▲土坑の中に立てられた石棒状自然石

▲埋設土器の中の石棒状自然石

ウバガ平遺跡（高山市上切町）

ウバガ平遺跡は、平成19年9月29日に開通した高山市の中部縦貫自動車道高山インターチェンジから700mほど北西方向に離れた地点にあります。平成13年度には約1,500m²を、今年度は3,560m²を調査しました。今年度の調査で、古墳時代終末期の古墳4基、縄文時代の住居跡3軒、弥生時代の住居跡3軒、竈を持つ古墳時代の住居跡3軒などを発見しました。古墳は4基とも、墳丘が残っていませんでしたが、周溝を確認し、その形から円墳と分かりました。古墳4基のうち3基は、開口方向が西北西で、平行して並んでいます。周溝や石室から7世紀後半の須恵器が出土しました。

縄文時代の住居跡のうち1軒は、床面から炭化物が多量に出土しており、焼失住居の可能性があります。弥生時代の住居跡床面からは、飛騨独自の弥生土器である横羽状文甕が出土しました。住居跡床面から全体形が分かる状態で横羽状文甕を確認したのは初めてであり、飛騨地域の弥生時代を研究する貴重な手がかりになると言えます。

▲ウバガ平遺跡全景（北から）

▲横羽状文甕

与島B地点遺跡・与島C地点遺跡（高山市上切町）

与島B地点遺跡・与島C地点遺跡の二つの遺跡は、高山市の中部縦貫自動車道高山インターチェンジ北側の谷地にありウバガ平遺跡に隣接する遺跡です。

与島B地点遺跡は今年度約2,000m²を調査し、古墳時代から古代の溝や小さな河川跡と時代不明の水田跡などを発見しました。溝の中に溜まった土の上層からは古代の土器が出土し、下層からは古墳時代に使われた小型の土器が出土しました。

与島C地点遺跡は今年度約1,500m²を調査し、古代の小さな河川跡を発見しました。この河川跡からは平安時代頃の土器が集中する場所を2か所発見しました。

今回の調査で、溝や小さな河川跡・水田跡を発見したことや、両遺跡の近くにある野内遺跡（古墳時代～古代）から水田跡が発見されていること、そして、遺跡の周りの地形などから、与島B地点遺跡・与島C地点遺跡の二つの遺跡は、この辺りに暮らした人々の水源地として、生活と深く関わっていたと推測できます。

また、溝や小さな河川跡から出土した土器の種類や出土した様子から、当時の人々が、水田で米を作るのになくてはならない水を得るために、これらの遺跡でお祭のような儀式を行ったのではないかと考えられます。

▲溝から出土した古墳時代の土器（与島B地点遺跡）

▲河川跡から集中して出土した土器（与島C地点遺跡）

考古学教室12

遠くからきた石

三島　誠

縄文時代の石

縄文時代は、土器が出現した約12,000年前から水田稲作が始まる約2,300年前までの約１万年間続く、狩猟採集経済の下で定住していた時代です。縄文人は、自然の恵みを得るために様々な道具を作りました。その道具もまた、自然の恵みである「土」「石」「木」などを利用したもので、それぞれの性質を見極めて、巧みに利用しています。石器作りもその一つです。

下の写真は矢の先につける鏃（やじり）です。鏃を作るために様々な色の石を使っていますが、獣を突き刺すためにナイフの刃のようになる性質の石を選んでいます。多くの石は、集落近くの川原や露頭（ろとう）で採れるチャートという石を使っているようですが、なかには、採りに行くために歩いて幾日もかかるような場所の石を使っているものも見られます。例えば、黒曜石（こくようせき）やサヌカイト、下呂石などの石材です。

今回の考古学教室は、このような遠くからきた石の産地に関する話です。

▲石で作られた鏃

石器に使われた石の産地を推定するためには

石器を作るために適した黒曜石やサヌカイト・下呂石は、溶岩が固まってできた石です。このため、採れる場所は限定され、黒曜石やサヌカイトは岐阜県内では産出しません。黒曜石は北海道の白滝・置戸・赤井川、伊豆の神津島（こうづしま）、静岡県の柏峠西、長野県の和田峠・霧ヶ峰、島根県の隠岐島、九州の腰岳・姫島・阿蘇などで産出し、サヌカイトは香川県の五色台・金山、淡路島の岩屋、大阪府の二上山（にじょうざん）で産出します。下呂石は、岐阜県の下呂市湯ヶ峰で産出します。下呂石だけは産地が一つですので、遺跡から下呂石が見つかったら、湯ヶ峰かその付近を流れる飛騨川の川原から採ってきたのだろうと推定できます。しかし、黒曜石やサヌカイトは、産地が多く、どこから来たのかを目で見ただけで判断することは困難です。

この場合、蛍光X線分析（けいこうエックスせんぶんせき）を用いて石器に使われた石の原産地を推定する方法を採る場合があります。蛍光X線分析は、試料にX線を照射すると試料中に含まれる元素によって異なる波長のX線が出ることを利用したもので、波長から元素の種類、強度から元素の量が分かります。石を形作っている元素はどの産地も似ていますが、石に含まれている各元素の量は産地ごとに特徴がありますので、この分析を行うことで産地を推定することができます。

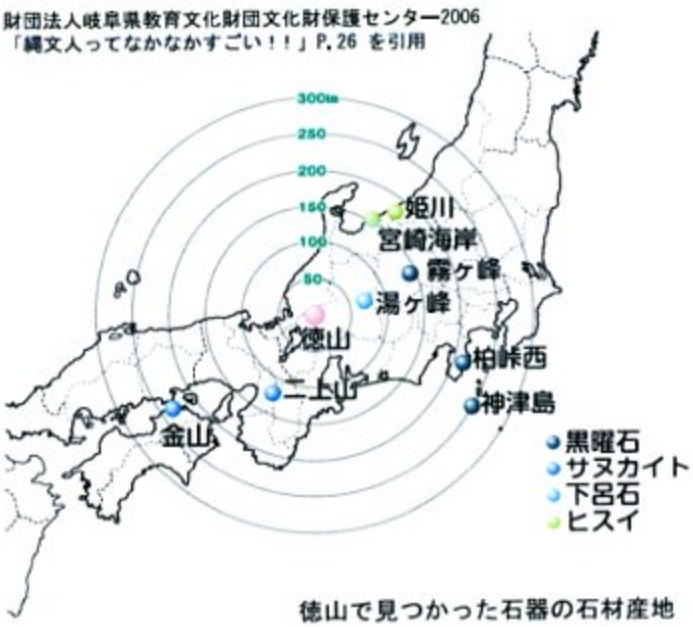
蛍光X線分析から石の産地を探る

岐阜県の西北端の旧徳山村（現揖斐郡揖斐川町）は、揖斐川の最上流域に位置します。谷筋に発達した河岸段丘や扇状地といった平坦地・緩斜面上に数多くの縄文時代の遺跡が立地しています。この地域の遺跡で出土した黒曜石、サヌカイト、ヒスイ製の石器の一部を蛍光X線分析した結果、この地域の縄文人は、広い範囲の石を利用していることが分かりました。縄文時代前期（約6,000年前から5,000年前）の遺跡で出土した石器の産地は、黒曜石が霧ヶ峰、サヌカイトが二上山で約150km圏内の産地のものに限られます。

縄文時代中期～後期（約5,000年前から3,000年前）の遺跡で出土した石器の産地は、黒曜石が霧ヶ峰の他に柏峠西や神津島、サヌカイトが二上山の他、金山のもので、この時期になると、250km圏内の産地まで拡がり、海を越えた広い範囲で交流していたと言えます。

小さな石器をじーっと見るだけでは分からないことも蛍光X線分析をすることで、石器は私たちにいろいろと語りかけてくれるのです。

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006
「縄文人ってなかなかすごい！！」P.26 を引用



徳山で見つかった石器の石材産地

現地説明会報告

広畑野口遺跡（各務原市蘇原青雲町）10月27日（土）

現地説明会は、あいにくの雨模様でしたが、94名の参加がありました。説明会場では、展示パネルを熱心に見られる見学者の姿がありました。

また、遺物の展示会場では、円面硯など文書行政を行う役人の必需品である遺物のほか、掘立柱建物跡の柱穴や廃棄土坑の中から出土した須恵器を中心に見ていただきました。

▲遺物展示会場の様子

▲遺跡見学の様子

荒尾南遺跡（大垣市荒尾町・桧町）11月17日（土）

今回の説明会は、天候にも恵まれ404名の参加がありました。メモを取りながら、全体説明を聞かれる姿、方形周溝墓を見て、「どうしてお墓と分かるのですか。」「遺構はどうやって見つけるのですか。」などと積極的に質問をされる姿、遺物展示会場で感嘆の声をあげながら遺物を見学される姿など、埋蔵文化財への興味関心を一層強くしていただけた現地説明会になりました。

▲全体説明の様子

▲遺跡見学の様子

平成19年度発掘速報展「発掘された飛騨・美濃の歴史」を開催しました

平成17年度と18年度に調査を行った遺跡のうち、荒尾南遺跡（大垣市）、小洞（こぼら）遺跡（関市）、中野大洞平（なかのおおぼらだいら）遺跡（飛騨市）、野内遺跡（高山市）の4遺跡を取り上げました。縄文時代から室町時代に至る61点の遺物を展示し、遺跡の概要をパネルで紹介しました。

今回、岐阜市の「県民ふれあい会館」（10月18日～10月30日）と飛騨市の「飛騨の山椒館（さんしょうかん）」（11月8日～11月25日）の２施設を会場とする移動展として、初めて開催しました。特に飛騨の方々には、今までよりも身近な催しと感じていただけたことと思います。

▲飛騨会場の様子

▲野内遺跡の墨書土器

センター日誌

11月 6日(火)　大垣市立東中学校2年生4名職場体験(三田洞事務所)
11月 7日(水)　大垣市立東中学校2年生4名職場体験(荒尾南遺跡)
11月 7日(水)　本巣市立糸貫中学校にて出前授業(3年生選択社会科)
11月 8日(木)　発掘速報展開幕(飛騨市「飛騨の山樵館」にて)　11月25日(日)閉幕
11月15日(木)　大垣西高校3年生80名遺跡見学(荒尾南遺跡)
11月17日(土)　荒尾南遺跡現地説明会(大垣市)　404名
11月19日(月)　大垣市むつみ保育園5歳児80名遺跡見学(荒尾南遺跡)
12月14日(金)　大垣西高校3年生40名遺跡見学(荒尾南遺跡)
12月20日(木)　飛騨市立古川中学校にて出前授業
(1年生1クラス 社会科歴史的分野)
12月21日(金)　飛騨市立古川中学校にて出前授業
(1年生3クラス 社会科歴史的分野)

▲大垣市立東中学校職場体験(土器の洗い作業)

▲むつみ保育園遺跡見学

▲飛騨市立古川中学校での出前授業

ミニ展示会のお知らせ

■県民ふれあい会館(岐阜市)
2階「生涯学習センター展示コーナー」(平成20年3月28日～6月末)
『鎌倉時代の遺跡でアッ発見！～船山北古窯跡～』
■ハートフルスクエアーG(岐阜市)
JR岐阜駅2階「キュービックギャラリー」(平成20年3月4日～17日)　『デザインから観る考古学』
■県政資料館(山県市)
1階「玄関ホール」(平成20年5月末まで)　『南高野古墳』
2階「ミーティングルーム」(平成20年6月末まで)　『平安時代の遺跡ってどんなもの？～深橋前古窯跡～』

あとがき

文化財保護センターに行って、縄文土器や弥生土器などを見ました。教科書に載っているものに直接触れることができて感激しました。磨製石器はツルツルでした。土器などを洗う作業では、中にはくずれたり、強くこすり過ぎると落ちてしまいそうな模様があるので注意して洗いました。キューテックスで土器のない部分を埋める作業は思ったより難しかったです。厚さを同じにするのに苦戦しました。作業員の方はとても上手で、さすが「プロだ」と思いました。
とても楽しく貴重な体験ができてよかったです。ありがとうございました。

＊＊

上記の文章は、職場体験に来てくれた、ある中学生からのお礼の手紙です。遺跡から出てきた出土品に直接触れて感動し、また整理作業の一端を体験して仕事の大変さを実感したようです。これからも、生きた学習ができる場として学校教育にも可能な限り協力していきたいと考えています。

ホームページを移転し、メールアドレスを変更しました。

ホームページ移転先
http://www.g-kyoubun.or.jp/maibun/
新メールアドレス
bunzai@g-kyoubun.or.jp(三田洞事務所)
bunzai-hida@g-kyoubun.or.jp(飛騨出張所)

三田洞事務所　〒502-0003　岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551
e-mail: bunzai@g-kyoubun.or.jp

飛騨出張所　〒509-4122　岐阜県高山市国府町名張字峠1425-1
TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690
e-mail: bunzai-hida@g-kyoubun.or.jp

SOY INK　この印刷物は環境に優しい植物性大豆インキを使用しています。